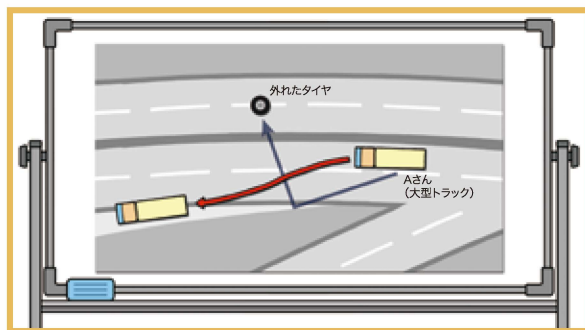


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に  
至るまでの  
状況

Aさん(男性、大型トラック、30代)は、大量の段ボールや古紙を処分場へ配送する途中でした。片側2車線国道の第二車線を制限速度で走行中に、「プシュー」という音とともに左側が沈み込む感覚がありました。何が起ったのかを確認するため、ゆっくり減速して左側車線に停車。下車したところ反対車線にいる人が、「タイヤが外れてこちらに転がってきた」と知らせてくれました。車体を確認したところ、第三軸左側のホイールのボルトが8本とも破断してタイヤが脱落。走行中に外れたため、タイヤは左側の金網フェンスに当たった後、右の中央分離帯を越えて反対車線に飛び出したものと推察されました。

事故現場  
略図



## 事故の原因

幸いにも事故によるけが人はいませんでしたが、一歩間違えば大事故になっていた事例です。トラックは、初年度登録から約9年が経ち、総走行距離は70万キロを超えていました。ホイールボルトは8本ともちぎれるように外れていて、そのうち何本かのボルトには錆が認められ、少し前から亀裂などの異常が発生していたことも確認されました。ひと月ほど前に自社工場内でタイヤの組み換えが行われたのですが、

その際には気がつかなかったとのこと。また、最大積載量は13.3トンなのに、事故当時は17トン以上の荷物を積載。Aさんに日頃の積み荷状況を確認すると、いつもこれくらいの量は運んでいるようでした。このことから事故の原因は、日常的に繰り返されてきた過積載と、点検方法不適によるものと推察されます。

## 安全運転に向けて指導のポイント

大型車は、車体が大きく重量があるため整備不良に起因する事故は重大事故に直結します。最大積載量を超えない使い方はもとより、正しい定期点検、日常

点検の実施を怠らないことが、安全に長期使用するために必要なことです。

## 今月の安全メモ!

・最大積載量は厳守! ・正しい定期点検、日常点検の実施を怠らない!